

保護司会会報

発行■西多摩地区保護司会 会長 武内昌一 編集■西多摩地区保護司会広報委員会 発行日■平成27年11月15日



■ ドラム缶橋（奥多摩湖）



目次

- ・社会を明るくする運動
 - ①第65回社明運動総括 2
 - ②中学生の感想文・参加保護司総括表 3
 - ③各分区の活動風景(写真) 4~5
- ・多摩連頭彰式典・第6ブロック組織運営連絡協議会 6
- ・社会貢献活動・西多摩地区更生保護女性会50周年記念式典 7
- ・会務報告・退任、新任保護司 8

第六十五回社明運動を推進して

平成27年11月15日

西多摩地区保護司会会報

地域活動部 松本 則夫

今年も七～八月重点に『社会を明るくする運動』を、西多摩地区全体で推進してきました。西多摩地区行政の八市町村毎に社明推進事務局が設置され、そのなかで保護司会としても八つの分区がそれぞれの推進事務局の一員となり、積極的に運動推進に務めてきました。

各分区毎、継続してきている独自行事の実施をはじめ、地域住民への啓発にむけて工夫を凝らした活動など、きめ細かい心の通った運動展開に一定の成果を得ることができました。

主な事柄を記します。

① 西多摩全体の行事延参加は、五、四八十名で、昨年より微増となつた。

(昨年 五、四三三名)

② 参加者は保護司、更生保護女性会員、一般、地域団体メンバーや中・高校生など。とくに、中・高校生の参加は、駅頭広報活動等に一、九九八名と全体の四割近くを占める。このことは中・高校生という早い段階で、社会

の一員として非行や犯罪の防止への意識を持たせる動機付けになつた。

③ 分区毎、従来のやり方に工夫を凝らし、主体的に活動推進に務めてきた。地域の夏祭りと連携した広報活動の推進、ミニ集会や親子マス釣り大会の開催、中・高校生への挨拶運動や社明趣旨説明・講義開催など、各地域に定着したイベント・活動となつた。

④ 昨年度より各区のイベントに、西多摩地区保護司会正副会長・分区長・地域活動部員が参加し、分区活動支援を行つてきた。このことが、各分区の良い点など取入れるための参考にもなつた。

なお、今年度の社明運動総括として、九月十六日に小川主任官、林田観察官にもご出席いただき、理事会兼社明報告会を開催しました。成果や反省点など意見交換しながら、今後の取組みにつき新たな認識を深めました。

平成27年度「社会を明るくする運動」参加人員総括表

西多摩地区保護司会 地域活動部

平成27年9月16日

区分	内訳							H26 年度実績	
	保護司	更生保護女性会	行政関係者	一般/各種団体	中学生	高校生	教員		
青梅	255	26	34	391	45		25	776	706
福生	158	50	27	64	57	250	23	629	804
羽村	137	42	56	70	21		26	352	341
あきる野	262	29	24	72	142		63	592	484
瑞穂	280	129	106	227	1,482		155	2,379	2,408
日の出	56	52	39	353			14	515	493
奥多摩	66	8	34	46	0		0	154	104
檜原	32	2	17	28	0		4	83	93
西多摩地区	31	参加者（保護司）は各分区に含めた。						31	35
合計	1,246	338	337	1,251	1,748	250	310	5,480	5,433

社明運動に参加した 中学生の作文

**社会を明るくする運動から
学んだこと**

青梅市立霞台中学校

井戸 涼聖

私は七月一日に社会を明るくする運動の強化月間活動の一環として広報活動に参加しました。私は去年も参加していたため、みんなが意外と知らない「目的」を後輩や同級生、駅で出会う人に説明することができました。短い時間でも活動が終わるととても清々しくなりました。

そしてこの活動で学ぶことができたのは「人の温かさ」です。まず感じられたのは、保護司会の皆さんが出迎えてくださった時です。皆さんはとても熱心に活動を行つており、そして私たちを温かく見守り、サポートしてくださいました。次に温かみを感じられたのはティッシュをもらつて下さる方々からです。中には「がんばってるね」「何やつるの?」などと声をかけて下さる方々もいて、とても勇気をいただくことができました。私たちの町、「青梅」

の人たちは皆心温かいので、この活動の主旨を知れば、必ず社会はますます明るくなります。安心して暮らせる町づくりのために、私たちの力でもっと多くの人たちに理解してもらわなければならないと思います。

明るい社会へ

青梅市立泉中学校

八木 翔太

僕は七月二十六日に、若草公園パーク前にて、「社会を明るくする運動」をしました。その活動は五年前からあるという、とても伝統的な活動でした。しおりやティッシュを配るという、簡単に見える作業でしたが、炎天下で大変でした。それでも社会を明るくすることに役立ちたいと頑張りました。現実社会ではいじめやそれによる自殺、差別問題など暗い話題が後を絶ちません。社会を明るくするには、小さなことをコツコツやっていくことが大切だと思います。なので、この活動のことをもっとたくさん的人に知つてもらいたい、参加してもらえば、もっと社会はよくなると思います。未来の社会がどうなるかは、今の僕たちにかかるつていると思います。今回のような活動があれば積極的に参加し、社会を明るくしていきたいと強く思いました。

平成27年度「社会を明るくする運動」参加保護司 総括表

西多摩地区保護司会 地域活動部

(延行事保護司参加人数)

分 区	平成26年度実績															広報宣伝			市内宣伝活動			福祉施設・訪問・介助支援		学校訪問		分区報告会		西多摩活動報告会		分区研修会・講演会		参加延べ人數計	
	首長訪問メッセージ伝達		社明準備委員会		社明推進委員会		駅頭活動		広報宣伝				市内宣伝活動			西多摩他分区支援	ミニ集会・集いの会	防犯パトロール	福祉施設・訪問・介助支援		学校訪問		分区報告会		西多摩活動報告会		分区研修会・講演会		参加延べ人數計				
	市内巡回	ポスター掲示・撤去	旗立て掲示・撤去	市内巡回	ブーム・図書館等	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動	市内巡回	ブーム・図書館等	旗立て掲示・撤去	駅頭活動			
青 梅	5	5	31	38		33		26				13	8		55			17	14		10	255	229										
福 生	0	11	15	21	21	20					0	0	23	5						21	17	0	4	158	189								
羽 村	3	14	14	18		16	14					15	5							17		17	4	137	150								
あ き る 野	5	21	25	29	41	29					25	1	0	4					0	24	28	25	5	262	243								
瑞 穂	16	16	14	16		25	12		100	16	0	32	2						12	15		4	280	275									
日 の 出	4	3	6	3		5	11					5	4	7	1				3			4	56	59									
奥 多 摩	7	7	0	11	7	7	0					3	7	7					7			3	66	52									
檜 原	3	3	3	3		3	3				3	0		3					6			2	32	36									
合 計	43	80	108	139	69	138	40	26	100	41	1	91	31	14	66	0	107	74	42	36	1,246	1,233											

合計欄のアミカケは、学校連携活動を示す。

各分区の社会を明るくする運動



奥多摩分区



福生分区



あきる野分区



羽村分区



瑞穂分区

社会を明るくする運動強調月間初日の七月一日、箱根ヶ崎駅において、駅頭広報活動が町長はじめ各種団体等の参加をいただき朝夕二回行われました。

瑞穂分区 大野とみ江

社会を明るくする運動強調月間初日の七月一日、箱根ヶ崎駅において、駅頭広報活動が町長はじめ各種団体等の参加をいただき朝夕二回行われました。

「おはようございます」・「いらっしゃい」の元気な声が、のぼり旗の立つ広場や横断幕のかかる構内に飛び交います。

登校前と下校後の中学生は改札口前方に立ち、爽やかな笑顔で乗降客に啓発グッズを配布し存在感と大きな成果をあげました。

そのほか町内二校の中学生対象に、朝の挨拶運動や社明の趣旨説明を兼ねビデオ放映を行いました。

また、学校訪問、大型店舗においては買い物客を対象に啓発グッズの配布や内容説明を行い理解を求めました。

八月のサマーフェスティバル会場での流し踊りには、お揃いのひまわり色のTシャツに社明のタスキを掛け参加し、観客にアピールしました。

しかし、まだまだこの運動趣旨が浸透されていないため、今後も地道な努力を積み重ねて行く必要を感じます。

瑞穂分区の社明運動



青梅分区



檜原分区



日の出分区

第三十四回多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典を開催

西多摩地区保護司会及び事務担当者の受賞者は次の方々です。
表彰者（敬称略）



平成二十七年七月三日（金）午後二時より立川第二法務総合庁舎九階大会議室において、第三十四回多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典が開催されました。

本年度の受賞者は百二十八名（保護司五十一、更生保護女性会員六十一、保護司会事務担当者七、BBS会員六、更生保護施設職員一、更生保護事業貢献者一）。

式典は、開会の辞、国歌斉唱、更生保護関係物故者に対する黙祷、そして、野崎重弥多摩連会長の式辞に統じて、顕彰が行われました。

感謝状が、野崎会長から受賞者へ贈呈され、その後百二十八名の受賞者代表者から謝辞が述べられました。

続いて荒木龍彦東京保護観察所長の挨拶とご来賓各氏から心こもる祝辞をいただき、祝電披露が行われて式典は閉会しました。



島田 瞳 (青梅分区)	田中英一郎 (青梅分区)
知久 一成 (青梅分区)	福島 幸之 (青梅分区)
藤谷 立自 (青梅分区)	村野 光治 (福生分区)
沖倉 時代 (あきる野分区)	川勝 宥実 (あきる野分区)
木宮 憲子 (奥多摩分区)	

保護司会事務担当者
岩崎 喜信
(あきる野市)

平成二十七年度第六ブロック保護司組織運営協議会に参加して

西多摩地区保護観察所長はじめ森久保康男東京都保護司会連合会副会長よりご挨拶をいただき、更に石井法子東京保護観察所立川支部統括保護観察官より趣旨説明がありました。

その後、各地区代表者による基調報告が活発に発表され、細部にわたり質疑が交わされました。

西多摩地区からは、小林喜代子福生分区長がトップバッターで意見発表を行い、「社会を明るくする運動」等で西多摩地区八分区が連携し、地域性や特性を生かした地域活動を開いていることなどを発表しました。

また、地区正副会长や地域活動部員が他の分区の社明活動に参加し、地域活動の参考にしていること、さらに、八分区の中の瑞穂分区における挨拶運動の実情などをきめ細やかに心の通った運動が展開されている様子などを発表しました。

総括では、観察所長より「保護司会では、地域活動のテーマを協議することが難しい課題と思いましたが、大変実りが多かったです。継続、蓄積が大切」と講評をいただきました。

最後に、次年度開催地が私たちの西多摩地区保護司会となりますので、武内昌一会長より「おもてなしの心を大切にお待ちしています」と挨拶があり、次年度に期待しながら閉会となりました。

その後の懇親会では緊張もほぐれ、なごやかなひと時を過ごしました。



社会貢献活動に 参加して



地域活動部 森田 一彦

本年度第一期定例研修で小川主任官から「社会貢献活動について」の研修を受けました。

本年度から社会貢献活動が必要であると認められた保護観察対象者には、社会貢献活動を行うことが特別遵守事項で設定され、活動への参加が義務付けられています。

八月三日、初めての社会貢献活動が特別養護老人ホーム「麦久保園」で実施されました。

当日の参加者は、少年男子三名、立川支部から石井統括官、平田主任観察官と神野観察官、西多摩保護区から森下地活副部長、吉中・森田の両地活部員の三名でした。

九時四十五分からオリエンテーション。

石井統括から麦久保園に感謝の挨拶、園からは篠島理事長、野村園長、島田事務長がご出席下さい、それぞれから丁寧なご挨拶をいただきまし

た。

その後、本日の担当職員から仕事の内容、注意事項等の話がありました。

午前中の作業は各部屋の清掃でした。少年・観察官・保護司一人づつ

の三チームを編成、次々に部屋の清掃をこなしました。少年たちも汗だくになり、一生懸命な姿に純粹さを感じました。

その後、食堂での下膳の手伝い、昼食後はカラオケクラブメンバーの余暇活動の手伝い。しかし、高齢の利用者さんが歌う歌は少年達にはどれも馴染みが薄い曲ばかりのようでした。「どなたか歌つて」のリクエストに応え、少年の一人が美声を披露し、孫が歌つたかのように顔を綻ばせたお年寄りが印象的でした。

「振り返り」の時間では「利用者の方とたくさん話すことができました」「お礼を言われて嬉しかった」「職員の皆さんの大変さがわかりました」等々、多くの感想が発表されました。

高齢者とのふれあいの中で、一日汗

を流した貢献活動。「ありがとう」と声を掛けられ、ちよびり自己有用感が芽生えてくれることを期待したい。

最後に、更生保護活動に深いご理解と常に協力してくださる麦久保園の皆様に心から感謝し、初めての貢献活動の報告とさせていただきます。

東京更生保護女性連盟会長は、「活動を始める「勇気」、続ける「根気」、動ける「元気」の三つの「気」が大切です」と述べられ、なるほどと感心しました。

女性会に功績のあつた方々への感謝状贈呈のあと、南元支部長に

西多摩地区更生保護女性会 結成五十周年記念式典

広報部 紫谷 道子

暖かい秋晴れの十月二十八日、青梅市福祉センターにおいて、結成五十周年記念式典が挙行されました。

東京保護観察所立川支部の南元支部長や西多摩八市町村長の皆様ほか多数のご来賓の出席があり、総勢百八十名の参加により、盛大に行われました。

更生保護女性会綱領の唱和から始まり、大勢のご来賓から暖かいご挨拶をいただきました。

支部長からは、「昭和四十年四月、三多摩の先頭を切つて発足し、初代今川会長から女性の立場で、時代に合った活動を脈々と受け継がれ展開されて来られた。今後も青少年の健全育成に力を注いでいただきたい。」とお祝いと激励の言葉を頂きました。

東京更生保護女性連盟会長は、「活動を始める「勇気」、続ける「根気」、動ける「元気」の三つの「気」が大切です」と述べられ、なるほどと感心しました。

より「少年非行の状況と厳罰化」と題して講演がありました。

昭和五十年頃から比較すると激減している少年犯罪にもかかわらず、一つの凶悪事件が起くる度に少年法が厳罰化されている現状を話されました。

罪を犯す人達は、劣悪な環境で育つた人達が多く、人生の被害者の様な者、その更生には、全ての事を包み込む母性・父性の感情をうまく生かした対応が大切である事を話され、更女に対し、これからも子育てのご意見番として活躍してほしいと述べられました。

懇親会では、懐かしい方々のお顔に出会い、互いに旧交を温めあっていました。

最大のイベントは、参加者全員が団扇を持ち、「愛をみんなで」の歌に合わせ、見よう見まねで踊り、和やかなうちに閉会となりました。



会務報告

今後の行事予定

地域活動推進協議会

十一月十七日（火）午後二時より
「羽村市生涯学習センター（ゆど
ろぎ）」

講演 山本 謙司氏

ブロック研修会

十一月十八日（水）
午後一時三十分より
「青梅福祉センター」

東保連頭彰式典

十一月二十六日（木）北区
午後一時三十分より
「あきる野市役所」

西多摩地区新年会

二十八年一月二十六日（火）
「羽村市生涯学習センター
(ゆとろぎ)」

新任保護司（敬称略）

編集後記

◆ 猛暑の中、「社明運動」も無事終了し、中学生の皆さんや多くの

方のご協力により活動の成果を掲載することができました。大変ありがとうございました。

最近、衝撃的で身勝手な凶悪犯罪に心が痛みます。

この運動をとおして、他人への思いやりや心の豊かさを育てて行き、誰もが安心して暮らせる世の中にしたいのです。皆様の今後のご活躍をお祈り申上げます。



森ノ木尚美
(青梅分区)

退任保護司（敬称略）

左記の方が平成二十七年九月十六日付で退任されました。

長い間保護司活動への奉仕ありがとうございました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（合掌）

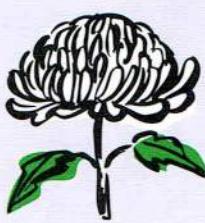
木村捷利様（青梅分区）

平成二十七年九月三十日逝去
享年七十歳（在職六年）

梶 喜太郎（青梅分区）
在職二十六年
笠本 洋子（青梅分区）
在職二十二年

持田 泰子（青梅分区）
在職十八年
吉野 一男（青梅分区）
在職十六年

栗原 悅男（羽村分区）
在職十六年
若松 仁（羽村分区）
在職八年



悼

左記の方がご逝去されました。生前のご功績をしのび、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（合掌）

- 一 総務部報告
- 二 研修部報告
- 三 地域活動部報告
- 四 広報部報告

今回の理事会では「社会を明るくする運動」の総括を主な協議事項としたため、東京保護観察所立川支部の小川主任保護観察官並びに林田保護観察官にも同席をしていただきました。

協議では、松本地域活動部長の活動報告の後、各分区長より分区の具体的活動報告がありました。

その他の報告

- 一 総務部報告
 - 二 研修部報告
 - 三 地域活動部報告
 - 四 広報部報告
- ・第一回社会貢献活動の報告
- ・地域活動推進協議会（十一月十七日開催）
- ・会報第百十七号の発行について
- 二十八年二月九日（火）
「福生市福祉センター」
- 二十八年二月十五日（月）
「あきる野市役所」
- 二十八年二月二十四日（水）
「青梅市福祉センター」
- いずれも午後一時三十分より